

一般質問

・静岡県の「2026年度をeスポーツ元年と位置付けを踏まえた御前崎市の取り組みについて」
・近年の長期化・大規模化の災害時の電源確保に対する御前崎市の取り組みについて



小田芳久

問

静岡県では2026年をeスポーツ元年と位置付けた施策を進めており、eスポーツには経済効果にとどまらない社会的意義があります。年齢・性別・国籍・障害等の壁を越えて、誰でも参加できるため、医療・福祉や地域活性化・教育・国際交流に活用する動きが全国的に広がっています。本市の認識を伺います。

答

eスポーツについては、年齢や性別、障害の有無などにかかわらず、多くの方が参加できる新たな交流・活性化の手段として、近年全国的に注目されていると認識しています。

問

日本国内のeスポーツ市場は年平均10%前後で安定的に成長を続けており、茨城県では「いばらきeスポーツリーグ2025」を開催し、大会を通じて若者の来訪者が増加し地域イベント化に成功しています。県・国の補助金を活用し御前崎ケーブルテレビの光回線を利用して官民連携による大会を検討する価値があると思われ

ます。外部財源を活用し、市の負担を抑えながら、モデル事業を実施する考えはありますが事業効果や費用対効果を慎重に見極める必要があると考えております。

答

事業効果や費用対効果を慎重に見極める必要があると考えております。

問

自主防災会では、各町内会の公民館や防災センターなどが災害拠点や一次避難所となっていますが、停電が発生した場合には、災害対応や避難生活に支障が生じていることが懸念されます。複数の電力確保対策を講じ、蓄電池や太陽光パネルを設置して自主防災会の拠点となる施設の停電対策を強化する考えはありますか

答

防災対策の強化は必要不可欠であると思いますが、災害が長期化した場合は広域避難所に移動していただくことを想定しています。一次避難所の蓄電池や太陽光パネルの設置は基本的には各町内会に対応していただくことを考えていますが、電源確保対策における町内会への補助金制度は今後検討してまいります。

一般質問

・効果的な副市長二人体制のあり方について



川口知幸

問

副市長二人体制が発足し概ね1年が経過するが、期待した効果は十分に発揮されているか市長に伺う

答

両副市長は、それぞれの強みを活かし、市長の補佐役として、当初期待していた効果は着実に発揮されつつあると実感しております。

問

副市長一人体制の時と今では何がどう変わったか市長に伺う

答

それぞれの強みを活かし、役割分担がしつかりできる点が一番のメリットだと思っています。特に外部との交渉の場においては2名体制の意義が大きいと考えています。

問

副市長としてこの1年間どのように取り組んできたか、今後どのように取り組んでいくか山崎副市長に伺う

答

職員一人ひとりが意欲を持って能力を発揮できる環境づくりに取り組み、業務効率の向上や住民サービスの向上につな

ていきます。

問

前問と同様の内容を松坂副市長に伺う

答

市の魅力向上につながるプロジェクトを通じて市民も来訪者も、本市をもっと好きになっていただけるよう民間企業の経験や人脈を活かし邁進してまいります。

問

副市長二人体制を市役所職員はどのように捉えているか、総務部長に伺う

答

多くの職員はこの体制が市政推進において有効であり、自身の業務にもプラスに作用していると認識しています。

問

「サーフタウン構想」の2人の副市長の関わり方はどのような分担がされているか市長に伺う

答

観光や移住など外部の人を呼び込む施策は松坂副市長、住民にとっての生活に関わる施策は山崎副市長に主体的に取り組んでいただきたいと思います。